

浜研通信



第8号

平成25年11月

浜地域研究所の近況をお知らせします

収穫の秋を迎え、研究所で栽培している各作物の収穫と調査に励んでいます。また、浜通りの被災地域再生をめざす先端プロ事業がスタートしました。浜通りの農業再生に向け、栽培研究さらには現地実証の立場からしっかり支援してまいります。



水稲

9月から10月にかけて水稲の刈り取りを行いました。試験水田にはたくさんの品種があり、適期に一品種ずつ手刈りします。やませやいもち病に強い品種育成に向け、日々作業が続きます。



トルコギキョウ



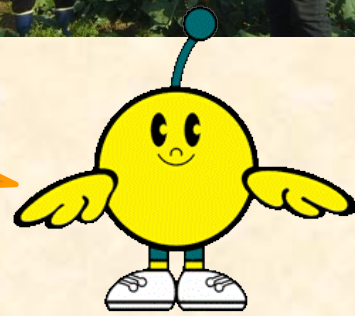
9月下旬にトルコギキョウ抑制型の収穫を行いました。トルコギキョウの後作にはヒマワリ、カンパニュラ等を栽培し花き周年生産体系の確立を目指します。

ブロッコリー

本年度はFOEAS(地下水位制御システム)を整備したほ場においてブロッコリーを栽培しました。地下水位を制御することができ、品質の良いブロッコリーを収穫することができました。



収穫の秋。



研 究 成 果 の ご 紹 介

小麦「ふくあかり」における施肥体系

2011年に品種登録された小麦「ふくあかり」の施肥量と収量・品質の関係について調査しました。その結果、出穂期の追肥を増量することにより収量と品質の向上を図ることができました。

表1 小麦「ふくあかり」の収量と品質(2012～2013年)

区	窒素量(kg/a)			精子実重 (kg/a)	外観 品質	タンパク 含量 (%)
	基肥	幼穂形 成始期	出穂期			
慣行	1.0	0.3	0.3	55.0	2等	10.1
追肥増	1.0	0.3	0.5	62.2	1等	11.0
基肥追肥増	1.5	0.3	0.5	57.2	2等	11.1



田んぼの生き物たち

農業に関わる生き物の紹介

アキアカネ(トンボ目トンボ科)

日本の秋の風物詩・アカトンボ。アカトンボは水田とともに生きている昆虫です。アカトンボの中でも最も代表的なのがアキアカネです。アキアカネは初夏に水田から羽化し、夏場を涼しい山で過ごした後、再び平地の水田に戻ってきます。稲刈り後の水田ではしばしばアキアカネが連結して産卵しているのを見かけます。水田の上にばらまかれた卵は冬場の寒さと乾燥に耐え、翌春、再び水田に水が入ると一斉にふ化するのです。



産卵中のアキアカネ(前がオス、後がメス)

作物の生育状況

〈水稻の作況試験〉

出穂期は7月中下旬の低温で平年並みからやや遅れましたが、8月中下旬は高温多照で経過したため、成熟期は平年と比較しひとめぼれは1日早い9月13日、コシヒカリは同じ9月28日でした。

〈大豆の作況試験〉

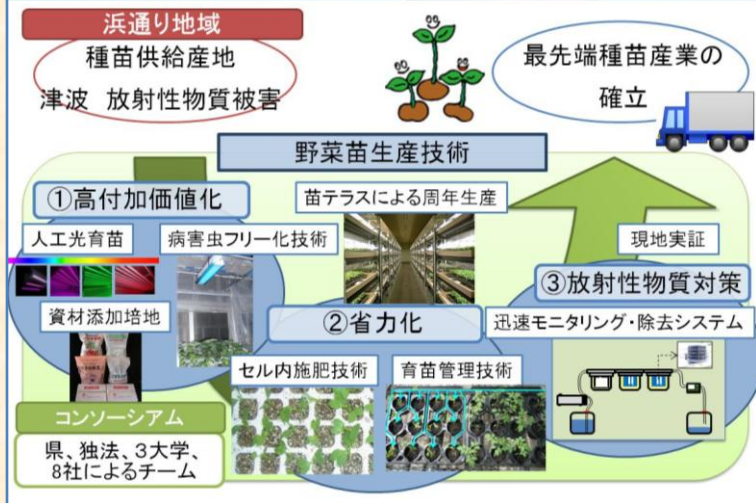
本年度の大豆は、標播(6月19日播種)は平年に比べ主茎長が長く分枝が少ない生育となり、成熟期は平年よりやや早まりました。晩播(6月25日播種)は主茎長・分枝ともに昨年を下回り、成熟期は遅れる見込みです。

先端プロ事業

新しい試験がはじまりました

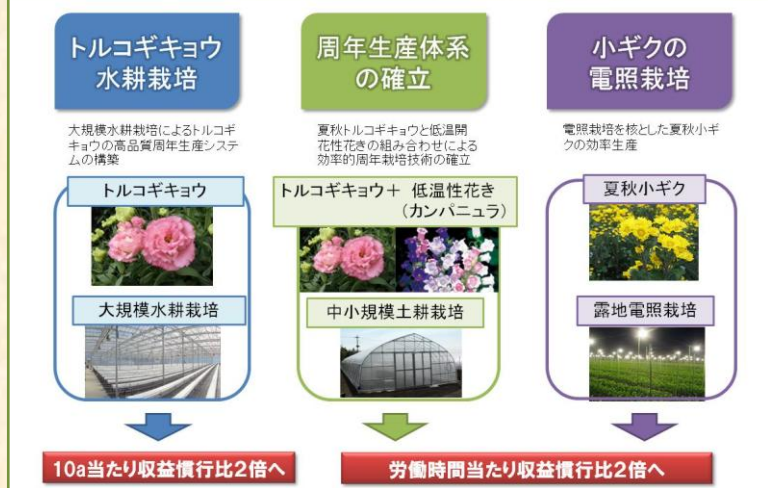
H25年度より「食料生産地域再生のための先端技術展開事業(先端プロ)」による野菜及び花きの試験が農業総合センター(郡山)を中心としてスタートしました。先端プロは被災地域再生のため、先端的な技術を駆使した大規模実証の事業です。野菜は「最先端種苗産業確立のための野菜苗生産技術の実証研究」、花きは「周年安定生産を可能とする花き栽培技術の実証研究」にH25年度～H29年度の5年間取り組む予定です。

野菜苗生産技術の実証研究



濱通り地域を最先端種苗産業として発展させることで復興の後押しとなるよう実証研究を行います。研究内容は、①高付加価値苗の技術確立 ②労力低減技術確立 ③放射性物質対策技術確立の3つからなります。浜地域研究所ではキャベツ、ブロッコリー苗生産において、肥効調節型肥料を用いたセル内施肥技術の確立に取り組みます。

花き栽培技術の実証研究



放射性物質の影響が懸念される地域において、多様な経営体の収益性向上に貢献する技術体系の構築と実証を目的として研究を行います。浜地域研究所では既存施設を活用した土耕栽培でのトルコギキョウの夏秋期出荷と、低温開花性花きであるカンパニュラの組み合わせによる周年生産体系の試験に取り組みます。

編集・発行 福島県農業総合センター浜地域研究所

浜地域研究所

検索

〒979-2542 相馬市成田字五郎右エ門橋100 TEL (0244)35-2633 FAX (0244)35-0319

ホームページ http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/bu_hama/hama_index.htm